

会報

2023.6



碑文

明治維新で活躍した薩摩藩の武士五代友厚は、一八三六年二月十二日鹿兒島に生まれた。長崎海軍伝習所で航海術・砲術などを学び、一八六二年に二十六歳で、上海に渡り蒸気船の買入れ調査を行った。

二十九歳の時、英国など欧州各国へ森有礼ら十五名の留学生を引率し産業・学校・病院の視察を行い、時代を拓く若い人材の育成に努めた。

一八六八年(明治元年)三十二歳の時、明治政府の外国事務局判事として初めて大阪に赴任し、初代の大阪税関長に就任した。五代はここでまず大阪港の修築により、外国貿易に道を拓いた。また大阪造幣局の設置に尽力し、日本の通貨制度の発展に大きく貢献した。

翌年民間に転じた五代は、鯨山開発や紡績業など数々の新しい産業を興し、大阪商工会議所を設立して初代会頭となり、大阪取引所も設立するなど、赫赫たる業績によって大阪実業界の父と称えられた。

一八八〇年(明治十三年)には、大阪府立大学の前身大阪商業講習所の筆頭創立員としてその開設を果たした。

大阪商業講習所は、一八八五年に大阪府立商業学校となり、一八八九年の大阪府発足に伴い市立大阪商業学校へと発展。その後、一九〇一年に大阪高等商業学校、一九二八年に大阪商科大学に昇格した。

一九四九年(昭和二十四年)には大阪商科大学、大阪府立都島工業専門学校大阪府立女子専門学校の統合によって新制総合大学である大阪府立大学が発足した。さらに一九五五年には大阪府立医科大学の編入による医学部設置をもって、現在の大阪府立大学の原型が確立した。

大阪のみならず日本の産業や経済の礎を築くとともに、大阪の教育の振興にも寄与し、近代化に偉大な足跡を残した五代は、一八八五年九月二十五日、四十九歳の若さで他界した。

大阪府立大学同窓会は五代友厚の果たした大阪の経済および人材育成に對する偉業に思いを馳せ、生誕百八十周年を記念して、ここにその功績を顕彰する。

二〇一六年二月十二日

大阪府立大学同窓会



都市学科と都市会

藪内 弘
(昭和56年卒)
(都市会会長)



(はじめに)

昨年9月より前会長の住吉さんの後を引き続いて都市会の会長をさせていただいている藪内です。

さて、2019年末から大流行したコロナ感染症も3年を経てようやく収まりかけてきた状況です。この3月末に都市学科の卒業式典に立ち会いましたが、卒業生の皆さんは、3年間学生生活を制約されて、大変気の毒に思っていました。皆さん明るく、和気あいあいとされていたこと、また、4月に新入生の歓迎パーティにも参加させていただいて、高校生活がどうだったか聞いたところ、制約の中でも工夫して楽しく過ごしたとの話もあり、コロナに負けないで、それぞれ学生生活を楽しんでいたのだなど、改めて若い方々のパワーを感じました。

(コロナと山登り)

翻って自分かというと、4年前大阪市役所を退職して自分の時間を多くとれるようになったので、世界のクルーズ旅行を楽しむなど、旅行の計画も立てていましたが、コロナで中止になって、夫婦で始めたのが山登りでした。山登りは、密になることが少なく、日本国内に安全に登れる山も多いので、とっつきやすかった面もあります。

山登りしていると、“踏み跡”(前の登山者の残した足跡)の大切さを感じる時があります。比較的日本の山は登山道の整備が進んでいて、百名山に数えられる山などは道迷いなど少ないですが、山によっては脇道に入ってしまう道迷いしそうなことがあります。山での道迷いは遭難にもつながるので大変危険です。迷った時、踏み跡や人の通った小道を発見できるとホッとします。この踏み跡をたどれば山の頂上に行ける、また登山口に戻れる安心感と自信を与えてくれます。しかし、注意しないとイケないのは、誤った踏み跡もあります。誤って、往復しているため、踏み跡がはっきりしていて、一見正しい道のように思えますが、実はそこが落とし穴になる場合もあります。道を間違っ

たなと感じたときは、地図を出してこまめに確認すること、正規のルートまで戻ることが大切です。横着して危険な目にあったことも何度もありました。道の選択はすべて自己責任で判断していかないといけません。そんな時同伴者がいれば相談できて安心です。
(人生という道)

「人の一生は重荷を負うて遠き道を行くがごとし」云々と徳川家康も残していますが、人生を道にたとえると、自分の前には必ず誰か先人がいて、踏み跡を作ってくれていたと思います。その跡をなぞって、背中を見て、勉強したり、仕事してきました。先人の業績、仕事の仕方を踏襲、中には失敗を教訓にしながら、自分なりに、道を踏み固めたり、幅を広めたり、伸ばすなどしてきたと思います。道に迷いそうになった時、都市学科の先生、先輩、同期、後輩に相談したり、助けてもらったり、支えてもらったりして、踏み誤らず歩いてこれました。人生の様々な場面で大学・都市学科との深い“縁”を今改めて感じています。会員の皆様にも少なからずそのような経験があるのではないかと推察します。

(アフターコロナと都市会)

都市会は都市学科の卒業生、教員、学生で構成され、活動としては、現役の学生支援、会員相互の交流促進活動をしています。コロナの期間中、様々なイベントを中止せざるを得ませんでした。会員間の交流も制限されてきましたが、アフターコロナを見据えて、再構築していかないといけないと思います。

今後、大学に求められるニーズは多様化してきます。都市学科は幅広い研究領域を有していて、卒業生にとっても心強い存在です。私にとって困ったときの駆け込み寺でしたが、今後、リスキリングや、生涯学習の拠点にもなるのではないかと考えています。

フェイス to フェイスの繋がりを大切にしながらも、コロナ禍の中で急速に進んだWEB会議やイベントへのバーチャル参加などを活用して、都市会がプラットフォームになって、会員と都市学科との結びつきや、世代を越えた会員間の交流を活発にしていきたいと思っています。都市学科との架け橋となって、大学がより身近な存在として、人生のよき道を指し示してくれる生涯の同伴者になれば素晴らしいことと思います。

会員各位の都市会への積極的な活動参加をお待ちします。

都市学科の近況

2023（令和5）年度学科長
相馬 明郎



はじめに

都市会会員の皆様には、平素から学科への種々のご支援を頂き、厚くお礼を申し上げます。約3年間に及ぶ新型コロナウイルスの影響や、昨年からのウクライナでの戦争など、我々の生活・社会・経済に大きな変化がもたらされる中、大阪公立大学が開学し、今年で2年目となりました。現在、本学は、大阪公立大学、大阪市立大学、大阪府立大学の3大学の学生が共に学ぶ環境となっています。我が都市学科は、概ね従来の体制で発足いたしました。本学科がこれまで目指してきた「持続可能で、豊かな文化を育み、安全・安心な暮らしができる都市の共創」に資する教育・研究は、未来社会においても、益々求められているところ、と確信するところです。

さて、お陰様で、昨年9月に都市学科9期生1名、今年3月には都市学科9期生54名が卒業、大学院前期博士課程38名が修了しました。また、大学全体の卒業式・修了式が、卒業生・修了生のうち総代等代表者のみの参加ではあったものの、滞りなく行われました。さらに、4月には49名の新生を迎えることができました。入学式も、新生と同伴者1名のみの参加ではあったものの、滞りなく行われました。また、今年度も昨年度同様、対面での授業実施が基本となり、キャンパスには、従来の活気が戻っています。

卒業生・修了生の進路の概要

2022年度学部卒業生55名の進路は、約53%の29名が大学院前期博士課程に進学し、残りの約47%の26名が社会人となりました。就職先は、公務員が8名（和歌山県1、大阪市5、神戸市1、藤井寺市1）、民間会社が18名（ゼネコン1、建設コンサル3、インフラ系1、メーカー4、設備・環境1、住宅・不動産2、その他6）です。同じく2022年度大学院前期

博士課程修了生38名の就職先は、公務員が3名（近畿地整1、奈良県2）、民間企業30名（ゼネコン3、建設コンサル7、インフラ系10、メーカー5、設備・環境1、住宅・不動産2、その他2）、帰国1名となりました。また、今年度は、大学院後期課程進学は4名（公立大3、海外大学院1）となりました。今年度は、建設コンサルタント、メーカー、鉄道、道路、電力、空港などのインフラ系に就職する学生が多いという特徴がありました。また、今年度は大学院後期課程進学者が4名というのも特徴でした。現在は、職場そのものも、コロナの影響で、仕事のスタイルが変化しているところも多く、従前よりも、職場・社会での人の繋がりを感じられる機会が少なくなっているようです。都市会会員の皆様には、後輩を温かな目で見守り、ご支援いただければ幸甚です。

博士（工学）の授与者

大学院の後期博士課程（都市学講座）では、22年度は2名の方が博士（工学）の学位を授与されました。

- 令和5年3月、白井悠吾氏（主査：山口隆司教授）「球状黒鉛鋳鉄を用いた道路橋床版と主桁の接合構造におけるすべり挙動および合成効果に関する研究」
- 令和5年3月、深井公氏（主査：大島昭彦教授）「スクリューウェイト貫入試験における各種要因の影響とN値、Su値との相関性に関する研究」

学生の活動・受賞など

後期博士課程、前期博士課程、4回生の学生ならびに卒業生の2022年4月～2023年3月の活動・受賞です。研究発表やコンペの作品応募など多方面へ積極的に活動し、個人やチームとしての成果を高く評価していただきました（括弧内は受賞当時の学年）。

- 2022年度土木学会関西支部年次学術講演会 優秀発表賞：小西美里さん（M1）、優秀発表賞（ポスター発表）：御所名航也君（M1）、インプレッシブポスター賞：池田未来さん（M1）
- 2022年度日本建築学会近畿支部研究発表会 優秀発表賞：高柳幸奈さん（M1）
- 令和4年度土木学会全国大会 第77回年次学術講演会 優秀発表賞：佐倉亮君（D2）、陳瑜君（D2）、関本将貴君（M1）

- 第 33 回廃棄物資源循環学会研究発表会 優秀講演賞：河原雄一朗君 (M1)
- 日本都市計画学会関西支部主催「震災復興のまち神戸市新長田駅南地区にぎわい創出」WS 最優秀賞：西山哲平君 (B4)
- 地方シンクタンク協議会「論文アワード 2022」総務大臣賞：高橋咲衣さん (卒業生)
- 本州四国連絡高速道路株式会社主催の橋梁模型コンテストに赤星花奈さん、石黒陽菜さん、木山大聖君、高木夢菜さん、安田航輔君、山田蓮君 (B4) が参加し、デザイン賞を受賞
- The International Association for Bridge and Structural Engineering Symposium Prague 2022：佐倉亮君 (D2) 陳瑜君 (D2)、橋本達也君 (M2) 福辻菜絵さん (M2)、大浦涼雅君 (卒業生)
- 10th European Workshop on Structural Health Monitoring：平岡葵さん (M2)
- The International Association for Bridge and Structural Engineering Congress Nanjing 2022：佐倉亮君 (D2) 陳瑜君 (D2)、関本将貴君 (M1)
- 学長賞：山崎耕平君 (卒業生)
- アーバン・デザイン甲子園 (日本建築学会近畿支部) 入選：須崎心一君 (M1)、横村優君 (M1)、平田遥久君 (B4)

教員の異動・活動

教員の異動では、2023年3月末に大島昭彦教授が定年退職されました。大島教授は、1988年(昭和63年)に本学工学部助手として着任されて以来、34年の永きに渡り、教育・研究にご尽力され、本学科の発展に多大な貢献をなされました。2023年1月に開催された最終講義「地盤工学との44年～圧密、せん断、地盤改良、地盤情報、地盤調査～」ならびに、その後に開催された懇親会では、多くの学内外の方々にお集まり頂きました。退職後は、本学の都市科学・防災研究センターの特任教授として着任され、新大学の発展に携わって頂くこととなりました。2023年4月には、地盤工学研究室に、岡田広久(おかだひろひさ)助教が着任されました。岡田助教は本学卒業生でもあり、今後のご活躍が楽しみです。また、角掛久雄(つのかけひさお)准教授が、2023年4月より教授に昇任されました。さらに、鍋島教授が女性研究者支援室

杉本センター長に就任しました。

教員の受賞では、山口教授が、「高力ボルト摩擦接合鋼桁連結部の純曲げ載荷実験による孔変形を指標とした支圧限界状態に関する研究」にて、土木学会構造工学論文集 Vol.68 論文賞を受賞しました。水谷准教授、貫上教授が、「PRTRを活用した少人数事業所からの化学物質排出量分布の推定」にて、環境技術学会 24 回論文賞を受賞しました。高木講師が、「地方小都市におけるエリアマネジメントの持続性に関する考察」にて調査部門アワードを受賞しました。林助教が、第 30 回鋼構造年次報告集講演会にて優秀発表賞を受賞しました。杉本准教授が第 19 回 GIS コミュニティフォーラムオンラインにてマップ部門 4 位となりました。

おわりに

2022年4月1日の大阪公立大学の開学は、異なった文化と伝統を持つ、大阪公立高等研究機関の出会いの場となりました。現在、本学は12学部・学域による総合知から、これまで以上の価値、これまでになく新しい価値を創造する大学となるための変革の渦中にあります。また、2025年には大阪万博が開催予定です。こうした中、多様な分野の新結合(イノベーション)による未来社会の創造と、その担い手の育成は、益々必要となるでしょう。この挑戦の成就には、産官学民に渡る皆様の知恵、技術と、それらを活かす“つながり”が不可欠です。都市会会員の皆様におかれましては、引き続き、都市学科への忌憚のないご指導、ご助言をいただくとともに、一層のご支援を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。



都市学科近況報告

安全防災領域

構造およびコンクリート工学分野

まず、皆様へのご報告として、2023年度より研究室の体制が変わります。角掛の教授昇任に伴い、鬼頭宏明先生の「構造工学研究室」と角掛の「コンクリート工学研究室」にそれぞれ分離独立することになりました（公大では1教授1研究室が原則のため）。時限付きで3年後はまた一つの研究室になると思っています。卒業生におかれましては伝統ある「構造工学研究室」の名前は残りますので、出身研究室が無くなるという訳ではありませんので、構造研出身もしくは指導教員の名前で所属した研究室をお伝えいただければよいかと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、2022年度の構造及びコンクリート工学研究室のご報告としては、学生が前期博士課程4名（M2:3名、M1:1名）、4回生4名の計8名という、研究室としては小人数のメンバーで活動してきました。M2の3名はNEXCO西日本（2名）、鹿島建設、B4の4名は大林組、大阪市（2名）、IHIへと巣立ってゆきました。残念ながら内部進学者は0名でより小所帯となっております。

2022年度の研究活動としては、鬼頭先生が複合構造、角掛が複合構造やコンクリートの補修・補強、維持管理を対象に実施しております。企業との関連研究などもおこなっておりますが、そのことが、論文投稿の弊害にもなっている点もあり、精力的な学会での発表がなかなか出来ていない点もあり、卒業生へのアピールが不足している点はご容赦頂きたい所存です。ただし、久々に土木学会の全国大会の対面で開催され、なかなか会えない一部卒業生とも会う事が出来たのはコロナ禍からの前進と受けとめられるものでした。今年度はコンクリート年次大会も対面実施となるようで、やっと、学会行事的にも通常に戻ってくると期待されます。

研究室としては、研究室内での定期的な懇親会がコロナ禍により無くなっており、今年度から徐々に復活できたらと期待している次第です。期待しているのは角掛だけで学生は受け入れてくれないかもしれませんが、また、ゼミ旅行もこの3年実施できておらず、

昨年度は実施しなかったのですが、最近は夏休み中も学生の行事などが多く、日程調整が難しく、断念しました。これも今年こそはと言ったところですが。

現場などの見学についてはコロナ禍になってからなかなか活動できませんでしたが、今年度は3か所ほど学生を連れて行かせて頂きました。

一つは、大阪府の鳳事務所さんのPCの補修工事であり、グラウトの再注入現場を見学させて頂きました。二つ目はJR西日本さんのコンクリート橋の断面修復現場、三つ目は阪神高速さんの震災資料保管庫と東神戸大橋の見学をさせて頂きました。特に、兵庫県南部地震は今の学生の生まれる前になり、授業なども含め、震災の説明をしていますが、現実感の無い中での被災した構造物を部分的ですが、見る事が出来たことは有意義であったかと思ひます。また、コンクリートの補修関連の見学ばかりしていますが、今の研究対象や維持管理業務の実態を知るためには必要不可欠だと思ひております。

まだまだ、卒業生のみならず企業の方とも直接会う機会もめっきり少なくなっております。学生だけでなく教員にとっても十分な情報交換が出来てないと感じております。今後は新型コロナウイルス感染症に対する規制が無くなってきており、また研究室としても様々なことに挑戦できる機会が増えることを期待してスタートをしております。

なお、2023年度のコンクリート工学研究室としては学生が前期博士課程2名（M2:1名、M1:1名（外部からの入学者））、4回生3名の計5名と少ないですが、少ないからこそ機敏に様々な活動をしてゆきたいと思ひております。鬼頭先生の構造工学研究室共々、今後ともよろしくお願ひいたします。



現場見学：卒業生小谷さんらJR西日本の皆さんと

応用構造工学分野

応用構造工学研究室／橋梁工学研究室は、今年度から新たに複合構造工学を専門に教育・研究活動されている鬼頭教授が加わり、教員 3 名（鬼頭教授、山口教授、林助教）、特任教授 1 名、客員教授 1 名、秘書 1 名、博士課程 12 名（うち、社会人 6 名）、修士課程 11 名、学部生 3 名の 32 名で勉学・研究活動に取り組んでいます。

社会インフラ構造物のうち、特に鋼橋・合成構造を対象に研究・教育活動を行っています。これまで、明石海峡大橋や堂島大橋のリニューアル工事などの関西の多くの橋梁の設計や建設、維持管理に関する検討を行ってきました。現在では、大阪市建設局橋梁課と橋梁技術に関する情報交換・技術支援に取り組む『大阪市橋梁技術交流会』や、阪神高速先進技術研究所と有限要素解析に関する意見交換・技術交流を行う『FEM 解析に関する意見交換会』といった社会貢献活動も行っております。また、現在、実務経験豊富な社会人ドクターの方々が多数、所属しており、実務と研究の両面から実現象の問題解決に取り組む体制が整っております。

教育面では、ここ数年は新型コロナウイルスの拡大防止のため、オンラインにて、研究室ゼミ、国内外のシンポジウム・会議における研究成果の発表することも多かったです。昨年度は、「IABSE Symposium Prague 2022」（チェコ）や「EWSHM 2022」（イタリア）へ学生を派遣し、現地にて学会発表を行いました（写真 1）。また、全国の鋼構造系教員からなる JSBC 実行委員会主催の『Japan Steel Bridge Competition 2022@ものづくり大学』（写真 2）、本四本州四国連絡高速道路株式会社が主催の『橋梁模型コンテス@橋の科学館』（写真 3）に学生が参加して、模型橋梁の美観性、架設性、構造性能を他大学の学生と競い合い、交流を深める活動をしております。さらに、2018 年度に立ち上げました、土木構造物の現場・現地見学を目的とした学内公認サークル『ぶら土木』の活動として、新名神高速道路（田上地区）（写真 4）、阪神高速道路海老江工区現場などの現場見学を行い、研究室の学生のみならず、学部生も対象として橋梁構造物に触れ合う機会を提供しています。

研究面では、橋梁の維持管理・大規模更新や道路橋示方書の改訂などの社会情勢の変化を踏まえ、接合部材の現場取替え工法の検討、合成桁の床版取替え工法

および接合構造の提案、鋼床版の下面補強工法、接合部および当て板補修部材の耐荷力評価、橋梁ヘルスマニタリングに力を入れています。また、皿型高力ボルトや双皿型ボルトセット、片面施工ボルトなどの新型ファスナー開発や、軽量・高耐食性に優れた GFRP 部材の接合構造の検討にも取り組んでおり、橋梁・橋梁付属物の長寿命化や現場施工の効率化の検討を行っています。これらの一連の研究活動に対して、後期博士 3 回生の佐倉亮君は第 68 回構造工学論文賞と第 77 回土木学会年次講演会優秀発表賞を、後期博士 3 回生の陳瑜君は第 77 回土木学会年次講演会優秀発表賞を、修士 2 回生の小西美里さんは令和 4 年土木学会関西支部年次講演会優秀発表賞を受賞しています。具体的な研究テーマは、研究室 HP (<http://brdg.civil.eng.osaka-cu.ac.jp/>) の研究ポスターの項をご覧ください。

研究室の近況は、Facebook (<https://www.facebook.com/omukyoryoken/>)、Instagram (https://www.instagram.com/omu_bridge/?hl=ja) にて、随時配信しております。そちらもご覧頂けると幸いです。



写真 1 国際学会発表会



写真 2 Japan Steel Bridge Competition 2022
（ものづくり大学にて、2022 年 9 月）



写真3 神戸模型橋梁コンテストの模型作成の様子
(橋の科学館にて2022年12月)



写真4 ぶら土木 新名神高速道路(田上地区)
(2022年6月)

地盤工学分野

2022年度を以て大島昭彦先生が定年退職されました。3月11日に工学部大講義室で開催した最終講義(写真1)には、250名以上(現地とオンラインの合計)の方にご参加いただき、その後懇親会(写真2)も大変盛況な会となりました。地盤研卒業生のみでなく、他研究室の卒業生の皆様にも大勢ご参加いただきましたこと、この場を借りまして改めて御礼申し上げます。

さて、2023年度の地盤工学分野は、岡田広久助教をスタッフに迎えて新体制となりました。教員は山田卓准教授と岡田助教の2名、学生は8名で、M2が2名、M1が3名、4回生が3名です。岡田助教は、地盤工学研究室の卒業生(平成21年卒)で、前職の神戸市在職中に大島先生の指導により博士(工学)の学位を取得しました。以来、地盤工学会関西支部研究委員会「夢洲の地盤性状と沈下性状の研究委員会(2021年~2023年)の活動等を通じて地盤研の研究に携わってきた経緯もあり、4月から順調に研究室運営に加わっています。

2022年度は、7月には新潟で地盤工学研究発表会、9月は京都で土木学会全国大会と名古屋での地盤調査(写真3)、12月には沖縄で地盤改良シンポジウムなど、久しぶりに研究活動を行うことができ、教員にとっても学生にとっても有意義な年となりました。

また、2月には2件の博士論文公聴会が執り行われ、高橋秀一さん(大型動的コーン貫入試験の周面摩擦力を考慮した実用的な打撃回数の補正方法に関する研究)と春日井麻里さん(大阪・神戸地域における250mメッシュ浅層地盤モデルの構築と地下水位低下による地盤沈下量、液状化対策効果の予測)がそれぞれ博士(工学)の学位を取得されました。

最後に、繰り返しのようになりますが、地盤工学研究室は4月より新体制となりました。今後も地盤研の伝統を引き継ぎつつ、さらなる発展を続けて行く所存です。



写真1 大島先生最終講義の様子



写真2 最終講義後の懇親会の様子



写真3 地盤調査一斉試験(名古屋)



写真 4 2022 年度の地盤研メンバー

河海工学分野

河海工学分野は、重松孝昌教授と中條壮大准教授、研究支援課の小池敏也技術職員の 3 名で、海や河川が関係する環境と防災に関する研究・教育を行っています。秘書の杉浦様、麓様にも日々ご支援を頂いています。

2022 年度は、20 名の学生が所属していましたが、前期博士課程：6 名、学部 4 回生：3 名が社会へ旅立ち、2023 年度は、客員研究員：3 名、後期博士課程：1 名、前期博士課程：9 名、学部 4 回生：4 名の合計 17 名という体制です。前期博士課程には大阪産業大学出身の宮崎風君がメンバーに加わりました。

教育活動としては、「コミュニティ防災」「大阪の都市づくり」などの全学提供科目の一端を担い、学部では専門科目として「都市工学のための科学基礎」、「基礎流体力学」、「都市工学のための力学基礎」、「プログラミング演習」、「測量学実習」、「水理学」、「河海工学」を主担提供しています。また大学院では「流体環境・水防災工学特論」、「特別演習（河海環境構造工学）」を提供しています。

研究面では、(A) 基礎研究として、波動場の多孔質体通過流れや、角を有する物体周りのはく離流れに関する数値解析手法の構築を行っています。また (B) 環境問題への適応策に関する研究として、内湾環境に適合した波力発電システムに関する研究、生態系ネットワークの構築に資するための沿岸流動モデルの構築なども進めています。(C) 気候変動の影響評価や災害に関する研究として、南海トラフ地震津波による大阪市域の浸水過程に土砂輸送が及ぼす影響の把握と排水過程に関する研究を行っています。また、(D) 特に台風災害に関する研究は多く、台風予報の不確実性に関する研究、経験的台風モデルの精度向上に関する

研究、全球確率台風モデルによる将来台風の予測、確率台風降雨モデルの構築など多岐にわたります。加えて (E) 2022 年に話題になった気象津波についての研究も現地観測資料と数値モデルの両面からアプローチしており、台風や前線から気象津波の原因となる微気圧波が発生する過程も明らかにしています。

全学の組織である都市科学・防災研究センター (UReC) でも 2 名の教員は主要メンバーとして教育研究、地域貢献活動に従事しています (重松教授は副学長兼 UReC のセンター所長です)。ゆっくりと進む気候変動によって、災害リスクは災害外力の面でも、災害に対する脆弱性の面でも高まっており、総合的な知の重要性はますます増大しています。そのような背景を踏まえて、公立大学であるからこそ可能な、先端的で実践的な取り組みを続けていきたいと思っています。

2022 年度は研究成果を、海洋開発シンポジウム (Zoom)、海岸工学講演会 (対面：横須賀) にて発表しました。また、海外ではオーストラリアのシドニーで開催された ICCE において 2 件の口頭発表を行っています。対面での学会開催も可能となつて、これまでの遅れを取り戻すように活発に研究活動が進むことを期待しています。

昨年度の研究室の行事としては、恒例の新入生歓迎 BBQ、ゼミ旅行、研究室卒業生新年会のいずれも開催できませんでした。今年度からは可能な限り再開したいと考えています。日常での何気ないコミュニケーションから相互理解が進み、気配りや責任感が生じます。単に在学中の円滑だけを求めるのではなく、その後の成長の糧となるような豊かさのある研究室としていきたいと思ひます。

また、昨年度も卒業生の方にはたくさんお世話になりました。卒業生の皆様もリクルートも含め、是非研究室へお立ち寄りください。



卒業・修了証書授与の様子 (河海・環境水域合同写真)

環境創生領域

地域環境計画分野

地域環境計画分野は、都市学科の中で、熱とエネルギー利用に関わる研究・教育を担っており、都市居住における熱的快適環境を創出すること、脱炭素化社会を実現するための効率的なエネルギー利用技術の確立を目指しています。分野を構成している教員は教授・西岡真稔と、教授・鍋島美奈子の2名であり、西岡は都市の熱環境に関わる伝熱理論や都市・建築の再生可能エネルギー利用技術を専門とし、また鍋島は都市の微気象と空間解析および建物群の熱融通技術を専門としています。都市のエネルギーシステムが専門である名誉教授・中尾正喜（都市科学・防災センター特任研究員）とは、引き続き連携して研究を進めています。2023年度は、後期博士課程1名、前期博士課程11名、学部4回生5名の合計17名（男性15名、女性2名）の学生と、研修生2名（堺市、大阪市）が研究室に所属しています。①帯水層を用いた空調用季節間蓄熱システムの開発や②建物群熱融通・熱利用ネットワークの開発の研究を継続的に行っており、また、③蓄熱・蓄電を用いた再エネ（太陽光発電）の都市規模での自家消費向上対策、④クールスポットの環境評価・環境創出技術、⑤都市型農業施設のゼロエネルギー化などの研究も近年に注力しているテーマです。

前述の研究テーマのうち①のテーマは、今年度から3年予定のプロジェクトとして、大阪公立大学（代表者：西岡）を代表事業者として、共同実施者5名、協力者2名の体制で環境省の委託事業を開始しました。日本の目指す2050年の脱炭素社会実現において、太陽光発電等の再生可能エネルギーの利用拡大は不可欠ですが、今年の3月や5月にもニュースになったように、発電量が過剰になると出力制御（発電を抑える制御）をせざるを得なくなり、設備稼働率が低下し事業者の経済的損失になります。この問題に対し、帯水層蓄熱システム（ATES）の持つ巨大な蓄熱能力を用いて、余剰時の再エネ電力を用いて蓄熱し、熱の必要時に電力を使わず冷房するような再エネ電力の調整装置として用いる技術を開発します。ATESは、それ自体が空調用エネルギーを30%ほど削減する省エネルギーのシステムですが、再エネ電力の調整装置としても活用することで、脱炭素社会実現に取り組んでいきます。

最後に、学位記を得て喜びに溢れる卒業生・修了生

の写真を載せます。2022年度卒業式・修了式は、新型コロナウイルス感染拡大前の本来の姿で、式典と学位授与式が開催されました。研究室では、修士卒5名と学部卒6名が学位を得て修了しました。大学から巣立った8名の学生は、能力を活かして社会に貢献すると共に、自らの力で新しい道を切り開いてくれることでしょう。研究室OB・OG会、あるいは学科の同窓会で、卒業生の諸君が社会で得た体験や、成功や失敗談など、皆さんの持ち帰る土産話を聞ける機会を楽しみにしています。



写真1 学位記を持った卒業生・修了生
(2023年3月24日)

都市リサイクル工学分野

都市リサイクル工学分野のスタッフは、貫上佳則教授と水谷聡准教授、年見寛和技術職員の3名の教職員と、秘書の坂井圭子さんの4名です。本年度の学生は、修士課程の2回生3名と1回生2名、学部4回生が6名の計10名です。一昨年度から続く新型コロナウイルスの影響により食事や会議等は制限が続いていますが、徐々に対面での活動が再開し、研究活動も活発になりつつあります。

都市リサイクル工学という研究分野ですが、ごみに関する研究だけでなく、廃棄物処理システムの適正管理、廃棄物・廃水からの資源エネルギー回収、リサイクル時の環境安全性評価と分析手法の改良、都市の廃棄物処理・上下水道システムの減炭化、震災時の化学物質の挙動の予測など様々な研究を行っています。

研究の一例として、下水汚泥焼却時に生成する付着物に関する検討事例について紹介します。下水処理場の汚泥焼却施設では、白色粉末の付着・堆積現象が確認され、放置していると熱膨張の差によって空気予熱

器内の配管が破断したり、焼却効率が低下したりするトラブルが発生しています。本研究室では、付着物が生成する原因の解明や、付着物量を簡易的に測定する手法の開発について研究を行っています。

また昨年度、共同分析機器として、ICP 質量分析装置（アジレント ICP-MS7850）が導入されました。今後、廃水・廃棄物浸出水・環境水中の微量重金属類の挙動を把握する卒業研究などで使っていく予定ですが、学生実験やオープンキャンパスなどでも活用されるとのことです。

学会活動では廃棄物資源循環学会や環境技術学会、下水道協会、日本水環境学会、日本環境化学学会など様々な機会を活用して、研究発表を行っています。昨年度は、宮崎大学で開かれた廃棄物資源循環学会年会にて当時 M1 の河原雄一朗さんが優秀講演賞を、水谷先生らのグループが環境技術学会第 24 回論文賞を受賞されました。今年は廃棄物資源循環学会の研究発表会が 30 年ぶりに大阪で開催されるため、研究発表のみならず会場スタッフとして運営のサポートも行う予定です。

さらに、建設系廃棄物の有効利用について関連業界と研究者、行政機関が情報交換を行う建設資源リサイクル研究会（会長は、本学名誉教授の山田優先生）を 30 年以上に渡って運営しているほか、廃棄物の処理や環境プラントの関連業界との情報交換を行う研究会を 4 年前から運営しており、社会との繋がりを意識するようにしています。

また、先輩方から環境・土木業界の情報を知ることができ、学生と教職員が共に楽しむことができる OB・OG 会やゼミ旅行などは、コロナ禍のために一切実施できませんでしたが、今年はなんとか開催できそうで、今から楽しみにしています。

そのほか、大学の環境マネジメント推進室に学生委員として参画し、他学部の学生とも協力しながら、環境に優しいキャンパスを目指して活動している学生もいます。今年は大学が統合してから初めての公立大学法人大阪としての環境報告書を作成することができました。

都市会の皆さまには、ゼミ旅行先、共同研究、学生の就職活動などでこれからも多々お世話になると思いますが、引き続き、ご指導のほど宜しくお願い致します。

参考: 公立大学法人 大阪環境報告書(2022 年度版)
<https://www.omu.ac.jp/assets/environment2022.pdf>



写真 卒業・修了式の日集合写真

環境水域工学分野

環境水域工学研究室では、相馬明郎教授（専門：水圏生態工学）、遠藤徹准教授（専門：水圏環境工学）、小池敏也技術職員（研究支援課）の体制で、沿岸域の生態系の仕組みと機能を数理モデル化、フィールドワーク、環境データ解析により解き明かし、都市沿岸域の目指す将来像を探求しています。

2022 年度の研究室メンバーは、前期博士課程の 2 回生：4 名、1 回生：6 名、学部 4 回生：5 名、学部 3 回生（早期配属）：2 名という体制でした。研究テーマとしては、①都市沿岸生態系による気候危機抑制と豊かな海再生の両得に関する研究、②生態系の食物網からみたイカナゴ・イワシ・ノリ減少要因と打開策に関する研究、③気候危機下におけるマングローブ・海草・サンゴ生態系の機能と保全の探求、④自然システム・経済システムの統合による気候変動・経済活動の最適化の研究、⑤ブルーカーボン・食糧供給・水質汚濁の統一解釈をめざす新規数理モデルの研究、⑥都市内湾におけるブルーカーボン像の実態把握、⑦定点観測カメラと AI 技術を活用した沿岸環境の簡易モニタリングシステムの開発、⑧都市沿岸域に造成された浅海域の生態系サービスの評価と見える化、⑨環境統計データ分析による大阪湾の環境診断と将来像予測、⑩都市河川大和川における遊水地の利活用に関する研究など、数理モデル・フィールド調査・室内実験・データ分析など、あらゆる手法を駆使し、大阪湾や播磨灘、東京湾などの沿岸域から全球スケールにおける水圏生態系に関わる研究を実施しています。また、学内のみならず他の研究機関（港湾空港研究所、兵庫県水産試験場）民間（東洋建設鳴尾研究所、関西エアポート）、大学（東京大学、広島大学）、地方公共団体（大

和川河川事務所、大阪府、大阪市)などと連携しながら活動しています。



卒業生との記念写真
(2023年3月24日工学部A棟前にて)

2022年度の研究室の主な活動は、

- 土木学会関西支部年次学術講演会 (@関西大学) で、

M1の石塚君、岡君、小倉君が研究発表、荒木君、大澤君、細木君がポスター発表しました。

- 第47回海洋開発シンポジウム(オンライン)で卒業生の済木君の修士論文の研究発表を行いました。
- 大阪公立大学・和歌山大学シーズ合同発表会(@和歌山大学)で遠藤先生が研究紹介とポスター発表しました。
- 2022年度水圏生態系モデリングシンポジウム(@東京大学大気海洋研)で相馬先生がコンビーナーを務め、講演しました。
- 第69回海岸工学講演会(@横須賀)で、卒業生の屋敷君、菊池君、M2の大町君、古川さん、M1の斎藤君が研究発表しました。

2023年度は、コロナによる行動制限もほぼ緩和されると思われますので、卒業生の皆様は、コロナ前のように研究室にお越しただけだと、お待ちしております。

都市デザイン領域

都市計画分野

2022年度の都市計画分野は、嘉名光市教授、高木悠里講師、後期博士課程2名、前期博士課程17名、学部4回生7名、研究生1名、研修生1名の体制で活動を行いました。

4月から高木講師が着任し、再び2人体制となりました。

研究活動は、御堂筋を対象とした都心の回遊性向上や滞留性改善にむけた研究、街路景観の評価に関する研究、密集市街地の民有空地活用に関する研究、船場地区における私有敷地内空間で構成されるパブリックスペースの研究をはじめ、かなり多彩な研究活動に取り組みました。

現在御堂筋では空間再編の事業を行なっています。側道を車道から歩道へと変える、いわゆる歩行者空間化の事業を進めています。嘉名は一連の設計に参画していますが、整備後の利活用のあり方を確立することが課題となっています。今年度は地元まちづくり団体や行政と連携し、研究室として研究活動に本格的に取り組みました。3月末にはシンポジウムにて発表の機会をいただきました。

また、今年度から新たな取り組みとして、奈良県宇

陀市室生集落のまちづくりに参加することになりました。室生寺で有名な集落ですが、まずは地域の暮らしや歴史文化を理解するためのオーラルヒストリー調査に取り組みました。

例年通りコンペ活動も活発で賞をいただきました。日本建築学会近畿支部都市計画部会主催第13回アーバンデザイン甲子園では、須崎心一、横村優(M1)、平田遥久(B4)らの作品が入選しました。

倉田英司さんが博士論文「伝統的建造物群の特性を活かしたまちなみ保全の運用体制構築に関する研究」を執筆し、博士(工学)を授与されました。

研究室の活動の詳細はホームページで報告していますので、ご覧ください。



卒業式当日の記念写真



シンポジウムで発表する学生たち

都市基盤計画分野

1) 教員及び学生

◇内田敬／教授

交通工学・国土計画：都市活性化のための来街者支援情報システム、交通需要予測のための回遊行動観測システムの開発、視覚障害者の街歩き支援ナビゲーションシステム

◇吉田長裕／准教授

交通環境工学：都市交通のグリーン化に関する研究、歩行者・自転車の快適性、安全性の評価方法に関する研究

◇学生（2023年度）：後期博士課程2名、博士前期課程10名、学部5名（大阪市立大学）、研修生1名、計18名。2022年度には、前期修士課程1名修了、学士課程6名卒業。

2) 活動状況・成果報告

2022年度の教員と学生の活動状況等です。

<教員活動状況>

内田：「大阪・関西万博来場者輸送具体方針（アクションプラン）初版」を来場者輸送対策協議会・議長として記者レクシ、新聞・TVにて報道されました（2022/10/17）。

吉田：毎日新聞(2022/3/5)、NHK 札幌(2022/5/17)、毎日新聞(2022/10/1)、NHK サタデーウォッチ9(2022/12/24)で取り上げられました。

<受賞>

土木学会関西支部年次学術講演会(2022/5/29)において、御所名航也くん(M1)が優秀発表賞(ポスター)を、日本都市計画学会関西支部「震災復興のまち 神戸市新長田駅南地区にぎわい創出」WS(2022/11/26)において、西山哲平くん(B4)が最優秀賞(グループ)を、

地方シンクタンク協議会「論文アワード2022」において、高橋咲衣さん(2013卒、2015修了)が総務大臣賞を受賞しました。

<修士論文題目：1編>

モバイルプローブデータを用いた街路空間構成が歩行者行動に与える影響分析—大規模ターミナル駅周辺を対象として—

<卒業論文題目：6編>

地域公共交通計画の策定状況と課題に関する調査研究／「盲導ロボット犬」の仮想実験環境の構築と挙動制御検証／信号交差点の幾何構造変化前後における左折車交通流の影響要因分析—大阪なんば交差点の事例—／LiDAR プローブ自転車を用いた信号交差点における左折車に対する自転車衝突リスク評価に関する研究／歩道上の滞留空間設置前後における歩行者交通流への影響分析／「ことばの観光地マップ」の実用化のための触地図に関する研究

3) 活動内容の記録

以下は、研究室における活動記録です。



オランダ自転車代表団が堺市訪問(2022年5月)



中井智仁君(M2)の国際会議発表(2022年9月 Dublin)



研究室メンバーの集合写真(2022年11月)



吉田准教授の国際会議発表(2022年11月 Dresden)

環境図形科学研究室

2023年度の環境図形科学研究室では、学部教育において専門科目の建築図形科学1、図形科学1全学共通科目の初年次ゼミナールを担当し、大学院教育では、建築情報処理特論と特別演習を担当します。

以下は2022年度の主な活動です。

<幾何学、グラフ理論などの数理に基づいた建築・都市の設計手法の探求>

日本建築学会全国大会はオンライン開催となり、卒業生の阿瀬君と河合君が研究発表をしました。

情報・システム・利用・技術シンポジウムが東京にてハイブリットで行われ、吉山君が研究発表（対面）を行いました。

建築情報学会学生レビューがオンラインで開催され、有宗君、植田君、加藤君、戸谷君、森君、吉田君が研究発表（オンライン）を行いました。

加藤君が卒業論文にて建築学科特別賞を受賞しました。

<修士論文題目>

- 街路画像を用いたセマンティックセグメンテーションによる歴史的町並みの研究—兵庫県の西国街道宿場町を対象として—
- 組合せ剛性理論に基づく立方体グリッドを剛にする斜材の新たな追加手法に関する研究

<卒業論文題目>

- 空間充填立体に基づく柔軟な立体の展開図の検討と形態デザインへの応用
- 画像生成AIによるファサードデザインに関する研究—奈良町屋を対象として—
- 点群データを用いた3D建築モデル作成における自動化システムの構築

- 3D都市モデルを用いた御堂筋歩道化による周辺建築の見え方変化に関する研究
- 地方自治体の公共建築を対象としたBIM適応性の比較評価

<学会活動>

- 建築学会大会にて研究協議会「建築と情報—これからの建築学に向けて」を9月に開催しました(図1)。
- 情報シンポにてOS(ハイブリット)を12月に開催しました。

2023年度はM1が5名、B4が4名、小林を含めて9名体制で研究活動を進めていきます(図2)。

日本建築学会 デザイン科学小委員会におきましては主査、建築情報学会では、論文編集小委員会の副主査を務めます。

引き続き、ご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



図1 研究協議会
「建築と情報—これからの建築学に向けて」



図2 卒業式にて研究室学生とともに

空間情報学分野

空間情報学分野は、自然災害や環境変化に強く安全で安心な持続可能な都市を実現するためにさまざまな空間情報をGIS(地理情報システム)やリモートセンシングなどの情報処理技術を用いて都市を多面的

に分析する研究をおこなっています。そのために自然科学や人文・社会科学を含めた空間情報を活用できる多様な教育や研究、人材育成をおこなっています。国内外の都市を地下の地質・地盤から地形、さらにはその上の環境や人間活動圏を包括した 3 次元空間として捉え、それらの空間情報を収集・管理・解析・可視化・共有し、都市計画や基盤計画につなげて、その成果を社会へフィードバックすることを目指しています。空間情報学分野の教員は米澤剛教授と杉本賢二准教授の 2 名であり、2023 年度は客員研究員 1 名、大学院博士後期課程 1 名、博士前期課程 1 名、学部 4 回生 5 名の計 10 名が研究室に在籍しています。研究室としては 2 年目であり、構成メンバーも 1 年目と比べて 2 倍に増え、学生室も随分とにぎやかになりました。2023 年 4 月に研究室のガイダンスが開催され、4 回生はまだ緊張した面持ちではありましたが卒業研究活動のスタートを新たに切りました (写真 1)。

空間情報学分野の 2022 年度の主な活動について、学部教育として都市学科の「都市学入門」、「測量学実習」、「都市総合演習」、「都市防災総論」を分担担当、全学の「初年次ゼミナール」を提供しました。学部教育では空間情報学を専門とする科目提供が 2024 年度からとなりますので、関連知識や基礎概念を部分的に紹介しました。大学院教育として「空間情報学特論」、「空間情報学特別演習」を提供しました。とくに特別演習では、毎回違う空間情報を扱い、それぞれの分析方法を実習形式で学習しました。2022 年 7 月と 8 月には都市科学・防災研究センターが主催する防災士養成講座が開催され、米澤教授が「災害情報の活用と発信」の講義を担当しました。2022 年 8 月に空間情報学分野として初めてオープンキャンパスにも参加し、研究室のブースにおいて 4 回生が積極的に研究の紹介や誘導をおこなってくれました (写真 2)。自分の研究を誰かにわかりやすく紹介・説明することの難しさも実感することができたようです。2022 年 11 月には大阪公立大学大学院工学研究科記念シンポジウムが中百舌鳥キャンパス (Uホール白鷺) で開催され、杉本准教授が「大阪市における建築物ストックの時空間分析」というテーマでポスター発表をおこないました。2023 年 1 月には工学研究科都市系専攻大阪公立大学開学記念シンポジウム-総合知で都市の課題に取り組む-が杉本キャンパス (田中記念館) で開催され、都市系専攻における実績紹介において杉本准教授が「リモートセンシングによる都市活動の把握」というテーマで発表をおこないました。2023 年 2 月から

3 月にかけて 4 回生は卒業研究論文の提出と発表を無事に終わりました。2023 年 3 月に 2022 年度卒業式・学位記授与式がおこなわれ 4 回生 3 名が卒業しました (写真 3)。2 名は大阪市役所と和歌山県庁に就職、1 名は本学大学院に進学しました。今後も研究室の 1 期生として空間情報学分野や後輩たちを支えてくれると期待しています。

3D 都市モデルの活用や BIM/CIM の導入、LIDAR による点群データの生成等をはじめとした空間情報の普及・活用や価値創造が現在急速に広がっています。これらの空間情報は今後、次世代の生活や社会の基盤となることが考えられます。空間情報学分野としても多種多様な分野での空間情報の活用に対応できる研究や教育をおこない、幅広い人材育成や活動に取り組んでいきたいと考えています。



写真 1 2023 年度の空間情報学分野メンバー
(教員・M1・B4)

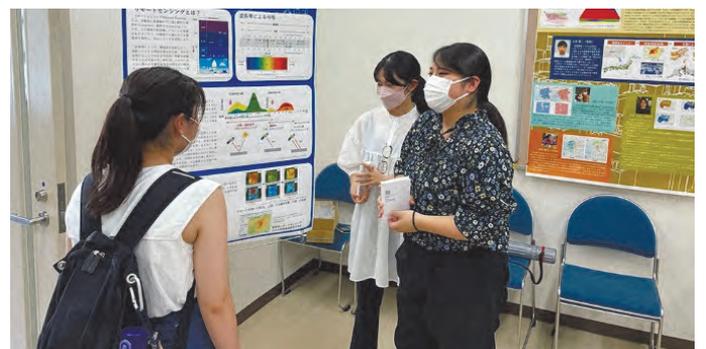


写真 2 2022 年 8 月のオープンキャンパス
(空間情報学ブース)



写真 3 2023 年 3 月の卒業式・学位記授与式

工学研究科都市系専攻大阪公立大学開学記念シンポジウム開催報告

都市学分野長 教授 相馬 明郎

テーマ： 「総合知で都市の課題に取り組む」
主催： 大阪公立大学大学院
工学研究科都市系専攻
後援： 大阪公立大学工学部都市会
大阪公立大学建築会
日時： 令和5年1月20日（金）
13時20分～17時10分
場所： 大阪公立大学杉本キャンパス
田中記念館 ホール
参加者： 151名（うち、オンライン7名）

2022年4月より、新たに大阪公立大学が開学し、新大学工学研究科としての都市系専攻が新たに誕生しました。新大学では教育力や研究力の一層の強化とともに、都市シンクタンクとして、地域社会の様々な課題解決に貢献することが求められています。そこで、新大学の都市系専攻を広く紹介し、今後の展望を示すべく、開学記念シンポジウムを企画いたしました。

第1部では、嘉名光市都市系専攻長・都市学分野教授の主催者挨拶に続き、綿野哲工学研究科長・工学部長から、新大学・新工学研究科が目指す方向についてお話がありました。その後、山口隆司都市学分野教授から、本シンポジウムの趣旨を説明致しました。基調講演では、東京大学生産技術研究所の豊田啓介特任教授をお招きし、「都市とデジタルテクノロジーが拡張する都市の次元ー」という演題で、情報技術の利活用に関する先駆的な取り組み事例の紹介と、今後の都市工学とデジタルテクノロジーの方向性についてご講演頂きました。専攻および領域の紹介では、嘉名光市教授より「都市系専攻」、鬼頭宏明教授より「構造系領域」、倉方俊輔教授より「計画系領域」、鍋島美奈子教授より「環境系領域」の研究施設

および所属教員の研究概要の紹介がありました。

第2部では、個別の取事例の紹介として、都市学分野の杉本賢二准教授より「夜間光を用いた都市活動に関する研究」、同分野の水谷聡准教授より「化学物質排出・移動量届出制度を活用した化学物質汚染に対する防災対策に関する研究」、建築学分野の金子健作講師より「3次元都市モデルと人工知能を用いた地震発生時の建築物の被害状況のリアルタイム推定に関する研究」、同分野の西野雄一郎講師より「市民DIYによる建築リノベーションと地域活性化に関する研究」、同分野の小林祐貴講師より「国内各大学のデザインコンピューティング施設の紹介および大阪市立・公立大学における教育活動」の紹介がなされました。

第3部では、パネルディスカッションとして、モデレーターの山口隆司教授と、パネリストの藪内弘様（大阪港トランスポートシステム代表取締役社長）、相馬明郎教授、中條壮大准教授、鈴木裕介准教授の4名により、社会が求める大阪公立大学都市系専攻のあるべき姿について「都市シンクタンクとして何ができるのか？」をテーマに、今後の教育・研究活動、輩出する人材像の議論が行われました。

最後に、谷口与史也建築学分野教授より、専攻の歴史、次世代へのメッセージ、決意が表明され、すべての行事を終了しました。

会場参加者とオンライン参加者を含めた参加者総数は、150名余となり、成功裏に終了することができました。ここに、参加いただいた方々に厚くお礼申し上げますとともに、新都市系専攻都市学分野として、これまでの研究・教育を益々深化・連携・発展させ、地域社会に貢献できるよう邁進していく所存です。引き続き、ご支援頂けますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



基調講演



パネルディスカッション



当日のシンポジウム
次第は上記 QR コード
からお願いします。

退職教員挨拶



大島 昭彦

(おおしま あきひこ)
(昭和 55 年卒)

都市会の皆様、こんにちは。地盤工学研究室に所属していました大島です。私は 2023 年 3 月末をもって大阪公立大学を定年退職しました。1976 年（昭和 51 年）4 月に大阪市立大学工学部土木工学科に入学してから 47 年間、また、1988 年（昭和 63 年）に助手に採用されてから 35 年間、皆様にお世話になり、ありがとうございました。2023 年 3 月 11 日に最終講義と懇親会を行い、多数の OB・OG の方に出席いただきました。重ねて御礼致します。コロナ禍の中、何とか最後に懇親会を開催できたことは幸運であったと思っています。都市会とは、旧土木会の時代から、幹事、幹事長を長らく務めさせていただきました。

私は 1979 年（昭和 54 年）4 月に土質工学研究室（現 地盤工学研究室）に配属されてから、44 年間地盤工学の研究を行いました。1979 年当時の研究室は、三笠正人先生、高田直俊先生、望月秋利先生、東田淳先生が、学生の教育・研究の指導を行っていました。今思うと、日本有数の地盤工学の研究布陣だったと思います。4 人の先生から土質力学・地盤工学の教育・研究の指導を受けましたが、中でも高田先生、三笠先生からは直接強い指導を受けました。今私がある

のはこの 4 人の先生のおかげと感謝しています。

私は若い頃は圧密、せん断、地盤改良などの室内で行う基礎研究が主でしたが、40 代半ばからは現場を対象とした応用研究にシフトし、特に最後の十数年間は地盤調査の研究が核となり、調査結果を用いて、圧密沈下を予測する、せん断特性を比較する、地盤改良効果を把握する、地盤情報へ反映する、というように各テーマが完全にリンクするようになり、充実した研究生活を送れたと思っています。これまでの 44 年間の研究内容は、私の最終講義の配布資料にまとめたので、ご入り用な方はメール(oshima@omu.ac.jp)で連絡いただければ PDF ファイルを送付致します。この 44 年間はいろいろな方々のご協力があったり成り立ったものですので、関係各位に深く感謝している次第です。また、何より一緒に研究に汗をかいてくれた卒業・修了生（学部生 85 名、修士 47 名、博士 4 名）に厚く感謝しています。

2023 年 4 月からの私の肩書きは、大阪公立大学名誉教授、同都市科学・防災研究センター特任教授、同工学研究科客員教授、同非常勤講師となり、もうしばらく研究・教育を続けます。また、居室は杉本キャンパスの旧教養地区の共通研究棟 211 号室に移りましたので、いつでもお越し下さい。

今後とも引き続き、ご支援・ご鞭撻いただくようよろしくお願い致します

新任教員挨拶



岡田 広久

(おかだ ひろひさ)
助教

2023 年 4 月 1 日に地盤工学研究室内の助教に着任しました岡田です。出身地は神戸で 2005 年に大阪市立大学工学部都市基盤工学科へ入学し、4 回生で大島研へ所属して卒業研究に取り組みました。その後の大学院へ進学し、引き続き大島研で研究に取り組み、修士課程を修了しました。

修了後は神戸市役所職員として勤務しておりました。黄色パトカーに乗って、道路斜面の補強、橋梁の補修、耐震化、河川改修に関する設計・工事に携わり、また、地域の人と一緒にまちづくりを考える部署にも

配属されました。中でも印象が大きいのは、土砂災害の復旧工事に携わる仕事でした。土砂災害から被害を防ぐにはどうすればよいのか今後の研究として考えるきっかけとなりました。

一方、市役所で勤務しながら、2012 年 10 月に社会人ドクターとして博士後期課程へ進学し、2017 年 9 月に博士(工学)を取得しました。大学院の研究では、浚渫粘土で埋め立てられた地盤の圧密沈下予測計算に関する研究を行っていました。

また、地盤工学研究室は修士課程 5 名、学部 4 回生が 3 名の研究室です。山田准教授と一緒に研究・教育活動に取り組んでいきます。皆様方のご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

就職ガイダンス

学生のキャリア形成支援活動の一環として、全学の就活イベントに加えて、学科・分野独自の業界説明会等を昨年度も開催しました。最近の採用活動の早期化を踏まえて開催始期を前倒しし、「業界説明会（第1回）」を2022年11月2日に開催しました。その後、1ヶ月強の間隔で順次開催した「業界説明会（第2回）」、「合同企業OB／OG相談会」の計3回の説明会等で、延べ40社・団体にご協力いただきました。

開催時期がコロナ第8波の渦中であったため、開催形式は全面オンライン（Zoom利用）としましたが、講演が主体となる「業界説明会」ではZoomブレイクアウトルーム機能を利用したQ&Aの時間をセッションごとに設けて、学生の主体的な参加を促しました。また通常であればブース形式で実施する「合同企業OB／OG相談会」も、Zoomブレイクアウトルームを仮想ブースとすることで、実質的には例年通りの効果を上げることができました。

イベントごとの、ご協力いただいた企業・団体は下記のとおりです。多くの先輩諸氏にご尽力いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

業界説明会（第1回）：2022年11月2日

- ・ゼネコン：鹿島建設(株)
- ・マリコン：東亜建設工業(株)
- ・建設コンサルタント：中央コンサルタンツ(株)、キタイ設計(株)
- ・鉄道：東海旅客鉄道(株)
- ・道路：西日本高速道路(株)
- ・橋梁：(株)駒井ハルテック
- ・環境プラント：(株)プランテック
- ・公務員：京都府（環境）

業界説明会（第2回）：2022年12月7日

- ・ゼネコン：(株)鴻池組
- ・建設コンサルタント：(株)日建設計（シビルグループ）
- ・鉄道：(独法)鉄道建設・運輸施設整備支援機構
- ・空港：関西エアポート(株)
- ・下水道：クリアウォーターOSAKA(株)
- ・鉄構・プラント：日鉄エンジニアリング(株)
- ・環境エンジニアリング：(株)神鋼環境ソリューション
- ・エネルギー・設備：(株)関電エネルギーソリューション
- ・公務員：近畿地方整備局

合同企業OB／OG相談会：2023年1月13日

- ・ゼネコン：西松建設(株)、(株)奥村組、鉄建建設(株)
- ・マリコン：東洋建設(株)
- ・建設コンサルタント：(株)ニュージェック、中央復建コンサルタンツ(株)
- ・鉄道：西日本旅客鉄道(株)、近畿日本鉄道(株)、大阪市高速電気軌道(株)
- ・道路：阪神高速道路(株)、首都高速道路(株)
- ・電力：関西電力(株)
- ・橋梁（メーカー、設計）：JFEエンジニアリング(株)、(株)長大
- ・プラント：Hitz日立造船(株)、(株)タクマ、(株)プランテック
- ・設備：(株)NTTファシリティーズ
- ・デベロッパー：阪急阪神不動産(株)
- ・公務員：水産庁、兵庫県、神戸市

特 別 寄 稿

全国の大学等で活躍する卒業生 (その3)

立命館大学理工学部環境都市工学科 准教授
長谷川 知子
(平成18年卒)



私が大阪公立大学（当時は大阪市立大学）を卒業したのは17年前になります。大学を卒業後、京都大学大学院に進学し博士号を取得しました。それから、2011年より茨城県つくば市にある国立環境研究所で日本学術

振興会特別研究員として3年間、特別研究員として2年間、テーマ型任期付き研究員として2年間勤めました。2016年から日本学術振興会海外特別研究員としてオーストリアの国際応用システム分析研究所にて、気候変動による食料安全保障への影響評価に従事しました。そして2019年より現在所属の立命館大学理工学部環境都市工学科准教授として着任しています。

現在、環境システム工学を専門とし、統合評価モデルというエネルギー、経済、農業、土地利用、水利用、気候などを統合的に解析するコンピューターシミュレーションモデルを用いて、気候変動問題について研究を行っています。具体的には、国、アジア全域、世界全体といったマルチスケールで、2030年から今世紀末までの短中長期を対象とし、特に農業・土地利用分野における将来の温室効果ガスの排出量見通し、その削減方策の検討、気候変動影響の経済的分析を中心に行っています。さらに、食料安全保障問題、バイオエネルギー、生態系保全、水資源など持続可能な発展に関する諸事象についても解析を行っています。



地球温暖化や越境大気汚染、食糧問題、水資源枯渇など地球規模の環境問題の影響やその解決方法を評価するためには、工学だけでなく、社会・人文科学にわたる知識と情報を有機的に組み合わせる必要があります。出来るだけ広い視野に立って関連情報を整理し、それらの間に存在するメカニズムのモデル化や、定量的な検討、将来推計および対策の立案などに関する研究を、これからも学生と一緒にいき、教育者である立場から若い世代に繋げていきたいと思っています。

海外便り (その2)

東亜建設工業(株)
国際事業部
平田 拓也
(平成24年卒)

1. 大阪市立大学在学時代

父親が海外で単身赴任をされており、幼い頃から海外に対する憧れを持っていました。国内外のインフラ整備を通じて人の役に立てる仕事をしたいと考えるようになり、当時の大阪市立大学の都市基盤工学科に入学。大学院では地盤工学研究室に進学しました。大島先生や山田先生の熱烈な指導の下、在学時は地盤調査（標準貫入試験や動的コーン貫入試験）に関連する研究に従事することに。協力業者と一緒に日本各地を飛び回り、現場で採取した土試料を用い、当時の研究室の先輩方と夜な夜な研究室で強度試験をしていたこ

とも懐かしい思い出です。現場の生きた土が有する情報の重要性を泥臭く学んだ経験は、**Civil Engineer** として働く今に繋がる貴重な糧となっています。

2. 東亜建設工業へ入社

入社してからの3年間は国内工事を担当しました。そこで土木職の基礎である安全管理、施工管理全般を学び、4年目からは念願の国際事業部へ異動。最初の9か月間は、積算課で海外案件の入札対応を担当しました。その後、入社前から憧れていた海外赴任の夢が叶い、インドネシアで石炭焚き火力発電所建設工事、さらにその後も同国のパティンバン新港開発工事に携わりました。夢であった海外のプロジェクトで「やってやる！」という意気込みと、「自分の力は海外でどこまで通じるのか」という不安の気持ちが入り混じっていたことを今でも思い出します。今回は特にパティンバン新港開発工事について述べていきます。



写真1 インドネシア石炭焚き火力発電所建設にて

3. インドネシア パティンバン新港開発工事

3-1. 工事背景

本工事は、インドネシアにおける国際協力機構（JICA）の有償円借款によるプロジェクトです。インドネシアの首都ジャカルタから東約150kmに位置するパティンバン地区に、国内最大のタンジュンプリ

オク港と並ぶ国際貿易拠点として新港を建設します。日系企業の製造拠点も多数集積するジャカルタ首都圏および東部工業団地は、タンジュンプリオク港への一極集中や貨物輸送量の増加により道路渋滞が問題となっています。また、タンジュンプリオク港だけでは2025年までに増加するコンテナの需要に対応できないという見通しがあり、早急な開発が必要とされていました。新たにパティンバン港を建設することで、貨物の取扱量増加および輸送の分散により、首都圏の物流の効率化が期待されています。



図1 パティンバン新港開発工事 位置図

3-2. 工事概要

発注者

インドネシア共和国運輸省海運総局（DGST）

工事名

PATIMBAN PORT DEVELOPMENT PROJECT (I)
PACKAGE 1: TERMINAL CONSTRUCTION

施工者（5社コンソーシアム）

五洋建設（株）、東亜建設工業（株）、りんかい日産建設（株）、PP、WIKA

契約工期

2018年10月29日～2020年11月26日（760日）

阪神高速1号環状線リニューアル工事
HI-SPEC シール工法 (LTタイプ)

「水」で人と未来を守る。

株式会社アイゾールテクニカ
isol technica

YouTube

**Straight
to the Future**

オリエンタル白石株式会社

施工概要

浚渫工	約 340 万 m ³
深層混合処理工 (CDM)	約 140 万 m ³
管中混合固化処理工 (CPM)	約 250 万 m ³
埋立工	約 82 万 m ³
栈橋築造工- Car Berth	308m
- Container Berth	421m
舗装工、排水工	1 式
仮設建屋、電気設備工事	1 式



図2 パティンバン新港開発工事 完成イメージ

3-3. 担当工種

本工事では、管中混合固化処理工 (CPM 工) の Section Manager として従事していました。表層 N 値 0~1 の軟弱土を CPM 材料として再利用することで、沖捨て土量や埋立砂量を削減し、環境負荷の低減を図っています。浚渫土は土運船に積込み、解泥船まで運搬し、解泥後は空気圧送船まで運搬します。空気圧送船で圧送された浚渫土は、途中固化材供給船にてセメントスラリーを添加し、打設船を介して埋立材として利用されます。

施工の特徴として、CPM 施工区域は水深が浅く、打設位置近くに船団を配置することが困難であったため、空気圧送船による長距離圧送 (最長 1,500m)

を行いました。また、現場海域の浚渫土は粘性が高く、そのままでは空気圧送に適していません。そこで、浚渫土に加水・攪拌し、空気圧送に適した状態に調整しました。打設は品質確保のため気中打設とし、セメント添加量は処理土 1m³ あたり 90kg、24 時間の連続施工で一日最大 12,000m³ (処理土) を記録しました。品質を確保しながら、如何にして日当たりの圧送土量を増加させるか。排砂管長さ、排砂管の曲線部、浚渫土の含水比や砂分含有量など管内抵抗に影響を与える要因は多く、一方で作業船団の機械故障・修理も付き物です。土木工学と作業船機械の両方の知識が必要となる、非常に貴重な経験でした。

表-1 主要船舶仕様

船舶名	仕様
解泥船	解泥機付きバックホウ : 4 台 スケルトンバケット付き : 2 台
空気圧送船 (風神丸)	圧送能力 : 1,000m ³ /h(1,500m) バックホウ : 5.12m ³ x2 台
固化材供給船 (PM-6001)	サイロ : 500t x 2 基 スラリー製造能力 : 400m ³ /h
打設船 (野分)	打設方式 : 自然流下式 アウトリーチ : 60m
排砂管	径 : φ660mm

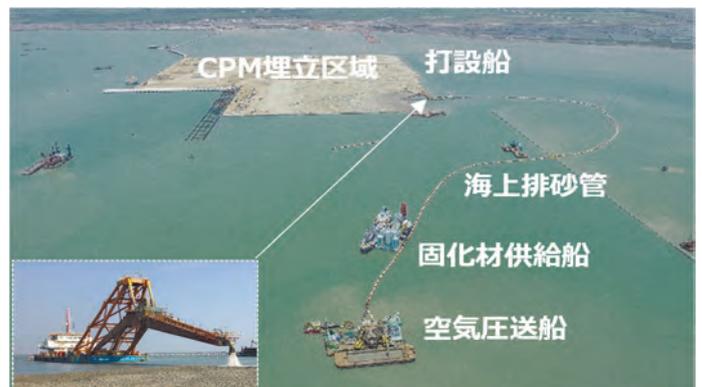


図3 CPM 船団施工状況全景



3-4. 工事を振り返って

当時、協力業者の職員とインドネシア人作業員も含めて、私のチームだけで約 180 名が従事していました。海外では日本での常識が通用しないことも多く、あらゆるトラブルの可能性を常に想定しながら、工事を安全に進めていく必要があります。それでもやはり、海外で仕事をしていくために最も大切なことは、異文

化に対する理解だと思います。英語だけではなく、現地言葉によるコミュニケーションや交渉も必要。そういった細かいことを理解し、配慮し合うことで、現場の一体感は増していきます。言葉と文化の壁も乗り越え、チーム全員が無事故で竣工を迎えられることが、海外工事の一番のやりがいだと感じています。

イベント開催報告

第9回大阪公立大学都市会 東京支部総会 報告

令和4年11月18日(金)に、第9回大阪公立大学都市会東京支部総会が東京品川のアリス・アクアガーデンで開催されました。都市会東京支部は、土木会の東京支部として、昭和60年に発足し、平成3年から毎年、原則として、土木の日に合わせて支部総会を開催しており、会員の親睦、近況報告等を行っています。今回もコロナ禍の中でありましたが、感染者の減少を踏まえ、会場側のご協力も得て感染防止対策を実施し、第9回都市会を開催いたしました。

当日は来賓として、都市会本部より、新しく会長に就任された藪内弘会長、並びに大内一元教授にご参加をいただき、会員16名と合わせて18名で開催いたしました。

総会は藪内会長の開会挨拶で始まり、大内先生や村上様(S43卒)にも近況を踏まえたご挨拶をいただきました。さらに、今年東亜建設工業の代表取締役社長に就任された、早川毅様(H1卒)もご参加いただき、ご挨拶を頂きました。昨年に引き続き少人数でのテーブル会食形式でしたが、懇親会も盛況の中、無事に終



えることが出来ました。コロナ禍の中、ご出席いただきました会員の皆様には心よりお礼申し上げます。

令和5年度の支部総会は11月17日(金)に場所は同じアリス・アクアガーデン品川で開催予定です。品川駅から徒歩3分と新幹線への便も良いので、出張等で上京の方や、逆に東京へ帰省される方も是非ご参加ください。

また、転勤等で関東地区に異動になられた方は、東京支部幹事までご連絡ください。

会費は新卒、現役学生の方は無料、卒業後5年未満の方及び65歳以上の方は3,000円、それ以外の方は5,000円となっております。

大阪公立大学都市会東京支部

幹事 山西和也 H7卒

E-mail yamanishi-kazuya@toyoconst.co.jp

地球のために
人のために
デザインする使命



<http://kitai-r.jp/>

建設コンサルタント
KITAI
キタイ設計(株)

土木構造物の
維持管理の全局面を担う

調査・診断、設計、施工管理支援

 株式会社CORE技術研究所
<https://www.coreit.co.jp>

本社 〒530-0047 大阪市北区西天満1丁目2番5号大阪JAビル4F
Tel.06-6367-2122(代) Fax.06-6367-2322
東京支店 〒111-0053 東京都台東区浅草橋3丁目8番5号VORT浅草橋8F
Tel.03-5825-9166(代) Fax.03-5825-9170
九州営業支店 〒812-0026 福岡市博多区上川端町12番28号安田第一ビル5F
Tel.092-402-0227(代) Fax.092-402-0228

連載企画 『10年ひと昔で強める同期の絆』

10年ひと昔 長いようで過ぎてみると短い外面の変化は隠しようがないけど、
心根は卒業の時のまま
その積み重ねで気がつけば〇年
そんな区切りの年を迎えられた学年の同窓会の様子を語っていただきます
毎年区切りの年があります 次はあなたの学年ですよ

宮本 潔 昭和 37 年卒



83 歳になってこうしてミャンマー
と言う外国の首都ヤンゴンで仕事
ができていることに感謝するのみ
です。ミャンマーの首都ヤンゴン
から 20 km程離れた、インseinと
言う都市の事務所で最長老として
頑張っております。でも悪いこ

とばかりではありません。スーパーではオレンジがと
ても安くて甘くておいしいです。一回で 20 個ぐらい購
入して、冷蔵庫に放り投げておけば事務所から帰った
ら食べごろに冷えていて一度に 5 個ぐらいいただいて
おります。ホテルでの食事ですので、値段は少し高いで
すが、日本料理のメニューもあって結構楽しくおいし
く料理をいただいております。安全上の関係で夜には
外を歩かないようにしております。兎に角暑いです。屋
外でヤンゴン環状線の駅構内改良工事の施工監督など
はキラキラ輝く太陽の下での管理となりますので表に
出ている手や顔には UV カットのクリームを毎日つけ

て外に出るようにし、飲料水のペットボトルは欠かせ
ません。外気温は 40℃をはるかに超えていると思いま
す。ホテルに帰るとまず風呂に入ります。スカッとして
からの食事となります。

朝晩はマイクロバスでホテルと事務所を送り迎えし
てくれます。事務所には蚊はほとんどいませんが、時々
ドアから侵入してくるようで、その蚊に刺されると
痒くて赤く腫れあがりますので、机の下には蚊取マッ
トを置いております。それでも蚊が飛んできて容赦な
く吸血するので、スプレー式の蚊取り噴霧を机の下や
周りに吹きかけておきます。

環状線の軌道改良工事は、部材の運搬などはクレー
ン付きのモーターカーで実施しますが、それ以外の作業
はほとんど全てが人力作業です。近いうちに機械を使
った作業に変え、労務賃金を上げて行かないと、近い将
来には国民所得が向上し、生活レベルが向上してくる
と線路工事労働者は重労働ですので、来る人がなくな
ってくる時代が近づいていると思います。できる限り、
機械化を進めるべきであると痛感しています。先日、現
地作業員も熱中症で倒れました。兎に角、暑さに負けず
ひたすら 83 歳の老骨に鞭打って頑張っております。

まじめに、まっすぐ
KONOIKE

建設はもちろん社会基盤の再生や環境保全の取り組みなど
私たちの事業は、明日を支えるために今日をがんばる仕事。
環境浄化技術をはじめ最先端の技術革新に挑戦しています。

鴻池組



Mr. PENTA

その先の向こうへ

GOING FURTHER



東京都文京区後楽 2-2-8
<http://www.penta-ocean.co.jp>

ワクワク未来
創りたい

リモート同窓会をやってみた 太田 敏一 昭和 47 年卒



我々の学年は、今年3月で卒業51年。本来なら令和4年度中に卒業50周年の同窓会をするはずだったが、コロナで開催できず、結局、今年の5月に開催することになった。それでは、10年に一度まわってくるこの原稿に間に合わない、そこで、有志がリモートでプレ同窓会をすることにした。

夜、7時半から、各自飲み物、つまみを用意して、パソコンやスマホで語り合う。こんなことが簡単にできる世の中になったのは、コロナの効果でもある。当日の話題からいくつか紹介しよう。

やはり思い出されるのは学生時代のこと。我々の「教養」時代には、「大学封鎖」というのがあって、A君は、クラブ活動をしようとしていた場所が占拠されて使えなくなってしまった。試験も、レポートが多かった。

学部や院のころ、コンピュータは、大型のものが計算センターにあるだけで、もちろん研究室にはない。パンチカードをセンターに持って行って計算してもらおう。大量のパンチカードを箱に入れて持っていくのだがうっかり落とすと大変。計算がすんだアウトプッ

トをプリントしてもらおうのだが、当時は予算がないので、40枚を超えるアウトプットは禁止であった。と書いても今の子はたぶん、まったくイメージできないだろうな。研究室にあるのは「タイガー計算機」というガシャガシャ回すやつ。お金持ちの研究室には真空管のシャープの計算機があって、1台40万円（当時の初任給の1年分くらい）。

仕事の話もいろいろ出たが、海外で大半を過ごしたB君からは、おもしろい話がいくつかあった。ロシアで仕事をしていたら、冬になってくると地表が凍る。そのため「土被り」を1m加えておかないといけないので埋設深さが深くなる。また、寒くなると、材料なども温めて使用しないとイケない。反対に、砂漠では、夏は大変なことになる。日中にコンクリートを打つなんていうことは厳禁である、などなど・・・

この日参加できない人からはメッセージももらったので、それも紹介した。C君からは、視覚障がい者向けの点字図書館で本を作るためのボランティアの報告。毎日2、3時間それに当てているということがあった。また、D君からは、自分が書いた絵と文を送ってくれた。彼は才人で、陶芸もやっているとのこと。皆、それぞれおもしろくやっているんだ。



なにができるんだろう？



夢と希望にあふれた
社会づくりを実現させるために、
わたしたち大成建設は
これからも人がいきいきとする環境を
創造します。

地図に残る仕事。
大成建設
For a Lively World

人と自然が微笑む社会へ



大日本ダイヤコンサルタント株式会社
Dia Nippon Engineering Consultants Co., Ltd.
<https://www.dd-con.co.jp>

話は尽きず、いろいろな話がでたが、紙面の関係で、最後に一つだけ紹介する。学生時代、下宿をしていた人もいて、E君の下宿はマージャンをしてもよいという寛大なところであったが、子供が試験期間中で、急遽、やめてくれと言われた。しかたないので、麻雀卓を街灯の下に持って行って、そこで打った。深夜でだれもいないと思っていたら、タクシーの運転手などが寄ってきて、この手はダメだ、とかこっちを切れ、とかうるさくてしょうがない。

若い時のたわいもない話をしていたらあつという間に時間となった。残りは、5月のリアル同窓会の楽しみにしよう。

角谷 広樹 昭和 57 年卒



(左から高野君、前君、桜井君、梅原君、角谷、中央が野原君)

今回寄稿する機会を得ましたので、延び延びになっていた同期会を3月に開催しました。

私たちの学年は、入学が33名(定員40名)と一緒に卒業できたのは僅か18名です。他の学年に比べ

て相当に少ないと思います。また、土木という特性上、地方公務員以外は全国、又は海外と勤務地が遠く離れているため、同期会も殆ど開催されませんでした。私だけかもしれませんが、先輩や後輩とは仕事する機会がありましたが、同期とは会うことは余りないまま、40年が過ぎてしまいました。今回の寄稿を機に、旧交を取り戻したいと思いますので、同期の皆さんよろしくお願ひします。

さて、私は、大阪市港湾局に勤めていましたが、平成30年に退職し、今は一般財団法人大阪港湾福利厚生協会に在籍しています。大阪市には多くの卒業生が入庁していますので、先輩、後輩とは仕事だけでなく、プライベートでも親しくしていただいています。40歳から始めた山登りと釣りは、終生続けたいと思っています。山登りは、大学院の時、高田先生に大峰山系の稲村ヶ岳に連れて行っていただいたのが始まりで、西穂高や白馬にも登りましたが、その後しばらく途絶えていました。川本さん(昭和47年卒)に、八ヶ岳に誘われたのがきっかけで山登りを再開しました。その後、湊さん(昭和41年卒)と登った屋久島の宮之浦岳、南アルプスの悪沢岳の絶景は忘れることができません。

一方、釣りですが、後輩の柴山君(平成5年卒)や山野君(平成6年卒)に誘われたのがきっかけです。今は大阪湾の太刀魚、南紀のイサギ、鯛を狙って藪内さん(昭和56年卒)や松井さん(昭和58年卒)と良く出かけています。写真は、昨年12月に初めてコウイカ釣りに出かけたときのものです。釣果は惨憺たる結果でしたが、良き友人と釣りをするのは、何よりも大切な時間です。この投稿の後、矢持先生と40cmオーバーのジャンボイサギを狙って4月に釣行する予定です。大物の釣果をお見せできないのが残念です。

挑め、進め、超えろ。

鉄建建設
TEKKEN

www.tekken.co.jp

Create Value,
Build the
Future

私たちの今が、社会の未来を創る

東亜建設工業
TOA CORPORATION

〒163-1031 東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー www.toa-const.co.jp

定年退職後も、先輩、後輩、また同期の皆さんと飲み会や、釣り、山登りを楽しめるのは、実にありがたいことです。



(左から、藪内さん、松井さん、布川さん)

公務員の技術者としての役割

船橋 康史 平成 14 年卒



私は平成 14 年に土木工学科を卒業しており、早いもので卒業から 20 年が経過しました。大学を卒業したあと大学院に進学しましたが、恥ずかしながら大学院を 1 年間で中退しており、平成 15 年に大阪市役所に就職しました。

大阪市ではまずは水道局に配属され、平成 15 年から令和 4 年までの 19 年間勤務しました。水道局では水道に係る業務として、浄水施設の運転管理・維持管理、浄水処理の調査研究、水道施設の耐震化・再構築計画、他事業体との連携業務、海外展開、浄水施設の

耐震化工事やシールド工事の設計、危機管理業務など、様々な業務を経験しました。

特に初めて配属された部署でもある柴島浄水場では、浄水処理技術について勉強させていただいたほか、膜処理など浄水処理に係る調査研究にも従事しており、専門的な知識の習得に努めることができました。大学の授業で上水道工学を専攻していなかったことを後悔しましたが、水道に係る業務で貫上先生と一緒にできたことも嬉しかったです。

また水道工事の設計に携わることで、公務員の技術者として重要な役割があることに気付きました。建設工事は主に公務員が発注者となり、建設コンサルタントが設計を行い、ゼネコンが工事施工を担っています。ものづくりでは、設計や施工が重要視されますが、発注者は建設する対象物を計画する立場にあり、また設計や施工において監理・監督を行うことから、公務員の技術者としての重要性とやりがいを感じました。

令和 4 年には人事異動で水道局を離れ、現在は大阪府と大阪市の合同部局である万博推進局に勤務しています。万博推進局では、2025 年大阪・関西万博の開催に向けて、国や博覧会協会、経済団体などの関係機関との連携のもと、会場整備や万博関連の交通インフラ整備に係る調整など、地元自治体として開催準備に取り組んでいます。これまでとは異なる新しい分野の業務になりますが、国家プロジェクトである大阪・関西万博に係る業務に従事できる貴重な機会だと思い、苦勞しながらも日々頑張っております。大阪・関西万博が開催される頃には娘が 3 才になりますので、家族と一緒に万博を訪れることを楽しみにしております。

大阪市に勤務している大阪市立大学の同級生や卒業生以外のみなさまとは、お会いする機会が少なかったと思います。また仕事や同窓会等でみなさまとお会いする機会がありましたら、是非お声かけください。

海風とかなえる
カーボンニュートラル

1929年の創業から1世紀にわたり
海とともに歴史を紡いできた誇りを胸に、
「洋上風力発電」への取り組みをさらに加速し、
社会課題の解決や豊かな未来づくりに貢献します。

夢から感動へーハートテクノロジー

東洋建設

https://www.toyo-const.co.jp/

本社
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-105
TEL.03-6361-5450

大阪本店
〒541-0043 大阪市中央区高麗橋 4-1-1
TEL.06-6209-8711

TODA CORPORATION

もっとワクワクする
未来へ

WORK WORK

豊かで持続可能な地球を目指して。
戸田建設は、SDGsの実現に
積極的に取り組んでいます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

www.toda.co.jp
戸田建設株式会社

令和5年度総会・懇親会開催のご案内

・ 総 会 令和5年7月12日(水)

PM6:00~8:00

・ 場 所 ホテル アウイーナ大阪 4階金剛

天王寺区石ヶ辻町19-12

(近鉄上六 06-6772-1445)

(ご注意 例年の会場から変更しています)

・ 参加費 5000円(学生2千円)

・ 出欠は、同封のはがき、もしくはメール等で7月5日迄に

令和5年度総会議案に対する電子・郵便投票のお知らせ

投票期間 令和5年6月28日(水)~7月11日(火)

下記のいずれかの方法で投票ください。

① 総会に参加の方は総会で賛否

② 同封の投票はがきで投票

③ 電子投票で投票

④ 都市会宛てメールで投票



(議案書QRコード) (電子投票QRコード) (都市会HP-QRコードを都市会から検索)



NEWJEC
自然と人を技術で結ぶ
Harmonizing People with Nature by Technology

交通・都市部門
 ■都市施設・景観デザイン
 ■上下水道
 ■道路・橋梁
 ■港湾・海岸
 ■PPP・PFI

基盤技術部門
 ■地盤・地質
 ■環境
 ■電気通信
 ■耐震診断・評価

建築部門 (一級建築士事務所)
 国際部門

河川部門
 ■ダム・河川・砂防

株式会社 **ニュージェック**
我々は関西最大の総合建設コンサルタントです

大阪本社 大阪市北区本庄東2-3-20 TEL:06-6374-4901
 東京本社 東京都江東区亀戸1-5-7 TEL:03-5628-7201
<https://www.newjec.co.jp>



Technology & Design Company Plantec

五島市タリセンター(長崎県)

焼却プラントを、美しく。廃棄物を、エネルギーに。

株式会社 **プランテック**

〒550-0003 大阪市西区京町堀1丁目6番17号 TEL:06-6448-2200(代表)

〈採用情報〉 <https://www.plantec-kk.co.jp/recruit/>



事務局だより

会員数 (令和5年4月1日現在)

正会員 2,601 名、学生会員 321 名、特別会員 152 名、総数 3,074 名

会費の納入のお願い!**●会費**

年会費は令和4年度から 3,000 円です。

- ・都市会会計の主な収入は会費です。未納額がある方は同封の納付書記載額の一部でも結構です。納付方よろしくお願ひします。会員へのサービス提供を継続できるよう引き続きご協力よろしくお願ひします!
- ・学生会員(大学院在学を含む)は会費納入が免除されております。

●旧環境都市会同窓会に在籍された会員の皆様へ

平成26年度に旧土木会、旧環境都市同窓会、旧都市会が合併して「都市会」が発足して5年目を迎えます。旧環境都市同窓会会員の皆様には終身会費として10,000円をお支払い頂いており、都市会発足後の5年間は会費の納入が免除されておりました。しかし、都市会発足時の規約制定に従い、令和元年度から年会費を請求させていただいておりますので御了解のほどお願ひ致します。

●終身会費

一括して会費を納入していただくことも可能です。会員在籍年数に応じて以下のように定められております。

会員在籍年数 (会費滞納のないことが前提です)

11年～15年以内の会員	105,000円
16年～20年以内	90,000円
20年～25年以内	75,000円
26年～30年以内	60,000円
31年～35年以内	45,000円
36年～40年以内	30,000円
41年以上	22,500円

在籍年数が50年を経過した会費滞納のない会員は、以後の会費納入が免除されます。

会員交流の促進**●職場班の結成を促進します!**

従来、職場班は全員参加がルールとなっていました。令和元年度よりその縛りをなくしてあります。5名以上の会員で結成することができ、会費の10%を職場班活動費として補助します。現在、大阪市、近鉄、神戸市の3職場班があります。令和5年度から「大阪メトロ班」が発足予定です。

●職場代表幹事制度

H30年度より各職場と都市会の連絡の窓口となる職場幹事を選任して頂き、会員情報収集等ご協力をお願いする「職場代表幹事」の選任を進めています。既に下記20社の方にご協力を頂いており、ご検討をお願いします。

(大阪市、大阪市高速電気鉄道、大林組、奥村組、鹿島建設、関西電力、近鉄、栗本鐵工所、鴻池組、神戸市、五洋建設、大成建設、東亜建設工業、東洋建設、西日本高速道路、ニュージェック、三菱重工和歌山県、IHI インフラシステムズ、JFE エンジニアリング)

●支部の結成

現在、支部は東京支部しかありませんが、他の地域でも支部を作ってはみませんか?

支部活動費として、当該地区会員の前年度納入額の20%を補助します。詳しくは事務局までお問い合わせください。

●都市会女性の会

令和2年度に都市会女性の会が発足しました。今、建設業界ではより一層の女性の活躍が期待されています。活動への積極的なご参加、ご提案をお待ちしています。

メール ocurbanalumnijosei@gmail.com

会報への広告掲載の御礼

会員の所属機関の広告を、会報に掲載させていただいております、広告収入は会報の発行に大変大きな支援となっております。本紙面をお借りしてお礼申し上げます。

・川本 清 様 (S47 卒、元都市会長)

2022/11

・興地 正浩 様 (H 8 卒)

2023/4

ホームページへの会員活動情報掲載

会員の活動が雑誌や新聞等に掲載された場合は、事務局に連絡をお願いします。活動の様子を HP にアップしています。最近では、稲垣具志氏 (H2 博士、土木学会編「日本インフラの技」、山田優氏 (S40 卒「舗装に花が咲くかー舗装工学への誘いー」出版) 等をアップ!

編集後記

新型コロナウイルスにより、懇親会のない郵便による総会が続きましたが、4年ぶりに通常形式での懇親会付き総会を7月12日(水)に開催します。皆様のご参加をお待ちしています。

・「特別企画」「連載企画」へのご寄稿いただける方が少なくなっています。次号は昭和38年(卒後60年)、昭和48年(卒後50年)、昭和58年(卒後40年)、平成5年(卒後30年)、平成15年(卒後20年)、平成25(卒後10年)卒業の方々です。同期会の開催や昔話など寄稿下さい。学年幹事の方よろしくお願い致します。



事務局の連絡先

メールアドレス ocurbanalumni@gmail.com

電話・ファックス 06-6696-2965

ホームページ http://OCU-toshi.com

企画・意見の募集

会員相互の研鑽と親睦を図るための企画やご意見を下さい。会員交流会や学生支援などの具体的な提案があればどしどし事務局へご連絡くださるようお願い申し上げます。



都市会 HP



都市会女性の会 HP

R4/5~R5/5 逝去された会員

お名前	卒業年	御逝去年月
・平野 匡勇 様 (S55 卒)		2022/4
・三上 市蔵 様 (S37 卒 旧土木会副会長)		2022/5
・濱田 勝弘 様 (S36 卒)		2022/10



都市学科 HP



大阪市大工学部同窓会 HP